

令和7年度第3回常総市公共交通活性化協議会 会議要旨

■開催

令和7年12月23日（火）10:00～11:15 常総市役所議会棟2階大会議室

■出席

委員：坂巻委員（女性団体じょうそう事業委員会）、篠崎委員（自治区長連絡協議会）、草房委員（常総地区交通安全母の会連合会）、高橋委員（シルバークラブ連絡協議会）、中村委員（市議会）、石塚議員（市議会）、◎鈴木委員（筑波大学）、柿本委員（茨城運輸支局）、伊藤委員代理（県交通政策課）、藤原委員代理（常総工事事務所）、前島委員（常総警察署）、室田委員代理（関東鉄道(株)鉄道部）、廣瀬委員代理（関東鉄道(株)自動車部）、相山委員（(株)アイヤマ観光）、松村委員（(有)三妻タクシー）、谷田部委員（関鉄労組）、浅野委員（市商工会）、細谷委員（市社会福祉協議会）、小淵委員（副市長）、小林委員（市長公室長）、川沼委員（総務部長）、秋葉委員（福祉部長）

※◎：議長

事務局：佐内都市建設部長、神達都市計画課長、坂巻補佐、佐賀主査兼係長、田村主事（記録者）

■内容

議案第1号 常総市地域公共交通計画の変更について

議案第2号 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について

■協議内容（◆：議長、●：委員、▲：事務局）

開会 10:00

【議案第1号】 常総市地域公共交通計画の変更について

⇒異議なし，承認

【議案第2号】 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について

●： ふれあい号の運行開始以降，各年度における一日あたり平均利用者数の実績を教えてください。

▲：（年度ごとの実績について，別紙ふれあい号資料のとおり説明）

なお，フィーダー系統確保維持事業における事業年度は10月から翌年9月までであり，今回報告する数値（44人）は令和6年10月～令和7年9月までの実績値から算出している。

●： 年ごとの利用者数の増減について，事務局ではどのように分析しているのか。

▲： 年ごとの分析についてこの場ではお答えできないが、近年の利用者数の減少については、運行台数の減少に伴うものだと考えており、需要に対して供給が追いついていないことによるものだと認識している。過去の会議録を見る限りでは、ふれあい号の台数が減少し予約が取りづらくなっていたこともJOYBUS運行の背景にあったと認識しており、ふれあい号の利用からJOYBUSの利用へ切り替えてくださる方がいらっしゃればという期待もあったが、現状は厳しい結果となっている。ルートや時刻の設定が原因の多くを占めると考えている一方で、ドアツードアでの移動に慣れていらっしゃる方にとって、バス停まで歩くことや乗り継ぎをすることは少なからず抵抗があるものと分析している。

学生や通勤、買い物などでバスを必要とする利用者層はいるとは考えているが、バス停の利用が難しい高齢者の方にとって、ふれあい号は引き続き必要になるので、多くの方にご利用いただけるような運行体制の見直しを進めていきたい。

◆： バスが普及するには、周知に時間を要することもあり、一般的にはおおよそ2年ほどの期間が必要である。人口は基本的に減少傾向にあり、高齢化率は上がっているもののふれあい号の需要自体は漸減するものと予測されていたが、運行台数の減少に伴い利用者数が急減したと考えている。供給力が足りていない。

●： 地域公共交通計画のふれあい号の目標値（1日あたり利用者数平均71人）は、タクシー台数が6台あったときの目標であって、現状の3台では実現不可である。一日あたりの利用者数は台数の減少とほぼ比例しており、1台の減少に伴いおおよそ14人/日減っていることがわかる。このような状況で、AIオンデマンド予約システムが本格稼働して以来、運転手への負担はかなり増している。先週は1台で一日あたり22人が乗車したという日もあり、休憩時間も満足に取れていない。

一方で、JOYBUSの目標値は一日あたり平均利用者数90人とのことだが、ふれあい号の目標値と比べて著しく低い数字なのではないか。バスの輸送力を考慮すると、せめて一日あたり平均700人ぐらいは目標値として設定してしかるべきなのではないか。

▲：（ふれあい号の車両台数の変遷について別紙ふれあい号資料のとおり説明。）

ふれあい号の目標値は、設定当時、コロナ禍の中で利用者数が最も多かった令和2年9月の利用者数を目標として据えようという考え方で設定したものである。当時の車両数は6台であり、目標利用者数を6台で割ると、1台あたり11.8人/日の利用になる。一方で、令和7年度は、車両数3台で44人の利用があったということで、1台あたりの1日平均利用者数は14.6人ということになる。AIオンデマンド予約システムにより効率性が高まった一方でタクシー運転手への負担が増してしまっているという認識はあるが、現在の効率性であれば、目標値である71人に到達するためには、車両数は5台（ $14.6人 \times 5 = 73人$ ）必要ということになる。公共交通全体の状況も変化している中で、最適な台数については引き続き検討していきたい。

また、コミュニティバスについては、車両数3台、運転士3人という状況の中で、大量輸送・定時定路線といったバスの強みを活かすにはどのようにすればよいか、事務局では再編案を検討して

いる。案がまとまった段階で、本協議会にもお示ししてご意見をいただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

- ： 小絹駅から出発するJOYBUSが15~20分程度遅れて内守谷に到着するという話を聞いている。JOYBUSを何回か利用していた方からも、到着時間の遅れがあるので利用をやめたという意見を伺った。道路状況を加味した時刻表に変更することはできないのか。

また、土日だけでも内守谷から乗り継ぎなしで道の駅へ行く便は考えられないか。

市民の移動需要は市内に留まらない。ニーズに応じて、市外への乗り入れも検討していただきたい。

- ▲： 道路状況が読めないことから時刻表通りに運行できないことは想定されるが、あまりにも遅れが常態化してしまっているようであれば時刻表の変更も検討すべきと考えている。継続的に運行事業者と協議を続けていきたい。

道の駅へ直接運行する便については、ご意見として受け止め参考にさせていただく。

コミュニティバスは、事業の許可としては民間路線バスと同様に扱われるものであり、必ずしも市内で完結する必要はないもの。市民の生活圏も市内におさまるものではないと考えているので、近隣の自治体と連携しながら、広域的な路線の設定についても検討していく。

- ： 以前から市に提案しているが、地域ごと、あるいは個人ごとにJOYBUSの具体的な利用例を作成していただきたい。JOYBUSの使い方がわからない、自分は乗れないものだと思ってしまう市民もいる。

- ▲： 本年夏休み中に、委員ご協力のもと、JOYBUSのお試し乗車会を実施した。その際に、菅原地区から石下地区のスーパーに行き帰るためにはどのバスに乗ればよいのか、具体的な利用例を示したチラシを配布した。こうしたチラシを地区ごとに作成したいと考えている。また、以前から委員よりご提案いただいている、個々が日常的に利用する便などをメモしておける、いわゆる「マイ時刻表」の雛形は完成しているが、現在の運行状況の中でどのようにPRを進めていくべきなのか、引き続き検討していく必要があると考えている。

- ： 毎日運行から曜日別運行に変更となり、利用者数の増減はどのような状況か。また、菅原地区の住民からは、曜日ごとに目的地を分けて運行したほうが使いやすいのではないかという意見も出ている。例えば火曜日は病院関係、金曜日は買い物関係など。

- ▲： 利用者数については、全体的な数字で比較すると、昨年度より減っている。菅原・大花羽ルートに限ってみると、利用者は昨年度より少し増えている。曜日別運行では、通学利用が見込めないことなどから継続的な利用に繋がらないのではないかと考えている。運行開始から2年近くが経過し、これまでの実績を研究しながら再編へと進めていきたい。

- ： 8月のお試し乗車会の際に実感したが、菅原・大花羽ルートの大生郷新田町中央橋、白郷橋のバス停は日除けもなく暑いことに加えて、交通量が多くバス停の安全性に疑問がある。停留所の位置に

についても検討していただけないか。

▲： 地域の皆様からのご意見については可能な限り対応してまいりたい。

●： 議案第2号の事業評価に記載されている目標値と実績値はふれあい号のみであり、JOYBUSについては触れられていないがなぜか。

▲： 議案第2号の別紙2フィーダー系統確保維持事業は、ふれあい号の運行補助として活用しているものであるため、ふれあい号の目標値と実績値のみを記載している。別紙3地域公共交通調査事業については次期計画の策定に係る基礎調査に活用しているもの。国の様式に従って作成しており、ふれあい号やJOYBUSの目標値や実績値の記載は不要となっている。

●： 別紙2の「⑤目標・効果達成状況」について、なぜ目標値が達成できていないのかわかるよう、目標設定当時と今般の事情の変化についても記載したほうが良い。

また、AIオンデマンド予約システムを導入し効率性が上がり、予約お断り件数が減少しているとのことだが、一方で、事業者への負荷が増していることについては、現状をよく分析し、早急に改善策を検討していただきたい

▲： 目標値の記載については、いただいたご意見を参考に修正する。

AIオンデマンド予約システムを導入した効果についてみると、令和7年1月時点では、月間利用者数708人に対しお断り人数は285人であったが、システム運用が軌道に乗ってきた令和7年7月時点では、月間利用者数982人に対しお断り人数は37人まで減少している。ただし、委員からもご指摘があったとおり事業者への負担が増していることは市としても課題として認識しており、現在、改善策について内部で調整・検討しているところ。案がまとまり次第、協議会にお示ししたいと考えている。

◆： 別紙2のポンチ絵にある協議会の開催実績について、全ての実績が記載されていないと思うがなぜか。

▲： 目標値の記載については、いただいたご意見を参考に修正する。

◆： 他にご意見がなければ、適宜修正の上で承認ということでよろしいか。

⇒ 適宜修正の上、承認

閉会 11:15